



12月4日から10日までの1週間は人権週間です。「みんなで築こう人権の世紀～考えよう相手の気持ち育てよう思いやりの心～」が今年度の啓発活動重点目標です。21世紀が『人権の世紀』であることを改めて思い起こし、国民の一人一人が人権を尊重することの重要性を正しく認識し、相手の気持ちを考え、思いやることの大切さを一人一人の心に訴え、全ての人々が個人として尊重され、相互に共存できる平和で豊かな社会の実現に向けた啓発活動が展開されます。

さて「人権尊重」を子どもたちに分かりやすい言葉で表現しようとすると、「自分を大切にするとともに他の人も大切にしてお互いを認め合うこと」だといえるでしょう。

本校の教育目標である「豊かな心を持ち、学び合い、ともに育つことのできる葛城の子」はその人権の尊重を目指すものです。

しかし、現実問題子どもたち同士が関わりながら集団で生活をしている中では、ちょっとしたことから子どもたちからの「いやなことを言われる、いやなことをされる、無視される」などの訴えは日常的に起こります。いわゆる「いじめの芽」です。「いじめの芽」は人権侵害の一つです。

そこで「いじめの芽」を早期に解決するには、教職員自らの人権感覚を磨くとともに豊かな人権感覚のある子どもたちを育て、「いじめをしない、させない、見て見ぬふりをしない」雰囲気を作ることが大切です。

本校ではいろいろな機会を通して「自分も人も大切に思う心を育てる」取り組みを進めてきましたが、まだまだ十分であるとはいえません。今後においても、積極的に人権教育に取り組み、思いやりの心を持ち、みんなと助け合い、お互いを認め合い支え合う学校づくりを進めていきたいと考えます。そして子どもの発する人権を侵害するサインを見逃さないよう努力していきたいと考えます。保護者の皆様もお気づきのことがあれば、遠慮なく学校にお知らせくださるようお願いいたします。

頑張ったよ、校内音楽会

校内音楽会、とても素晴らしかったです。子どもたちみんなが音楽科の時間を中心に一生懸命頑張って練習してきた成果です。一日や二日の練習で今日のような演奏ができるものではありません。

ところで、音楽会は、一人ひとりの技術を磨くと同時に、学級・学年のまとまりを大切にするための校内行事です。葛城小学校がひとつにまとまってきたことを強く感じるとともに、子どもたちの無限の能力に感心しました。

また、朝早くからたくさん
の保護者にお越しいただき、
またたくさんのご意見
も頂きました。

次年度の参考にさせていただきたい
と思います。本当に
ありがとうございました。

加えて、翌日の市の連合音楽会に本校の代表として4年生がコスモスシアターで堂々とすばらしい歌を披露してきました。



グラウンドゴルフと昔あそび

11月には、4年生がグラウンドゴルフ、1年生が昔遊びを通して地域の皆さんとの交流を深めることができました。初めて経験するグラウンドゴルフでは、ルールや打ち方を丁寧に教えていただき、楽しくプレーをすることができました。

また昔遊びでは、竹トンボやお手玉、あやとり、けん玉、竹馬、リングリングなどいろいろな遊びを準備していただきました。各コーナーを回る子どもたちは、地域の皆さんにやさしく指導していただき、できた時には満面の笑顔で接することができました。また、難しいけれどもがんばって取り組む真剣な顔を見ることができました。

地域の方からは「昔を思い出しながら子どもたちと一緒に楽しみました」と嬉しい言葉を頂きました。

6年理科研究授業

27日、6年生の理科研究授業で、実験用てこを使って、てこが水平につり合うときの左右のおもりの重さと支点からの距離を調べ、てこがつり合うときのきまりを考えました。

観察や実験を仲間と協力して楽しく活動しながら結果を予想しようとする態度を養い、見通しをもって問題解決する能力を育てる授業づくりに取り組みました。

事後討議会では、市教委の大西先生から、よりよい授業づくりについて熱心な指導をいただきました。

ルールを守る子どもに！

チャイムが鳴ったら席に着く、授業を受ける準備ができている、忘れ物をしない、私語をしないで授業を受ける、人の話をしっかりと聞く、自分を自分の意思でコントロールするなど、授業や学校生活を通して確かな学力をつけるための基本的なルールであり、確かな生活習慣を身につけるための基本的なルールです。

本校では多くの子どもたちはこのようなルールを守ることができています。しかし、僅かですが、できていない子どもたちがいることも確かです。このような子どもたちがいることが日常化すれば、学習の場である学校の機能が損なわれるとともに子どもたち自身の人間力の低下にもつながることになりかねません。

子どもたちに寄り添い、学習規律などのルールを守ることの大切さを教えていくために、我々教職員も指導力や指導体制の強化に努めていますが、家庭の協力も不可欠ではないかと考えます。

保護者の皆様には本校の教育を支えていただくためにすでに多大なご協力をいただいておりますが、今一度、子どもたちに「学習にしっかりと取り組んでいる？」「学校や社会のルールが守られている？」と声かけをしていただき、学校へ送り出していただけたらと考えます。

学校は小さな社会です。

学校で確実にこれらのことができなければ、厳しい社会では通用するはずがありません。それを子どもたちに理解させていきたいと考えます。